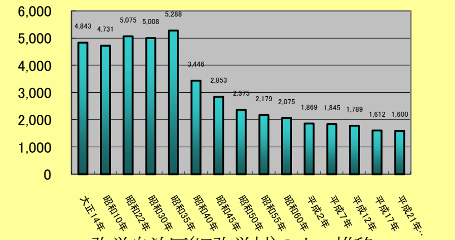
モデル事業名	作業支援・資源活用・都市連携による「資源人材循環モデル」の構築
活動団体名	弥栄らぼ、島根県立大学里山レンジャーズ、島根県中山間地域研究センター、藤井基礎設計事務所
ホームページ	http://blog.canpan.info/yasaka-labo/
所属／担当者名	代表 今田 孝志　　事務局　皆田 潔
連絡先	0855-48-2002
活動地域	浜田市弥栄町

● 活動地域の概要

人口('09/4 月末)	1,600 人
世帯数	729 世帯
高齢化率	43.0%
面積	105.5ｋm^2
集落数	27 集落
浜田市街への所用時間	30 分



弥栄自治区(旧弥栄村)の人口推移

● 活動地域の課題

地区内には、世帯数 19 戸以下・高齢化率 50%以上の小規模・高齢化集落が 8 集落ある。これらを中心に、生活の質の低下、多様な人材・組織との関係の弱体化、農林地の放置、地域活動の衰退が生じている。

● 活動の内容

・平成 20 年度

「弥栄らぼ」は、平成 19 年度に実施した国土施策創発調査事業の終了に伴い、島根県の中山間地域コミュニティ再生重点プロジェクト事業や国土交通省の新たな公によるコミュニティ創生支援モデル事業の支援を受け、拠点施設を浜田市弥栄支所に近い場所に移し、新たに活動を実施できた。

構成メンバーも、地元で農業や民泊業などを営む方などを加えることによって、住民ニーズに沿った活動ができるようになった。

主に挙げられる具体的は平成 19 年度で継続活動したもの以外として、次のとおりである。

〇草刈支援：高齢者農作業負担軽減
〇雪掻き支援：高齢者対策
〇特産品販売：弥栄町ＰＲ、特産品研究

そして、前年度同様に「里山レンジャー」と共に活動し、この団体は、県大の正式なサークルとして認められ、「里山レンジャーズ」として構成委員 30 名を超える組織となった。

・平成２１年度

21 年度は、島根県中山間地域研究センターが「中山間地域に人々が集う脱温暖化の郷づくり」事業※を平成 24 年まで弥栄町で取り組むことになっており、「弥栄らぼ」はこの事業と連携した活動を行う体制を採り、弥栄と郷づくり事業を結ぶ機能を果たしている。

※この事業は JST-RISTEX 研究開発プログラム「中山間地域に人々が集う脱温暖化の『郷』づくり」の助成を受け実施している。

● 活動の成果

・平成 20 年度

弥栄らぼは地域外部出身の人材（専従スタッフ２名と島根県立大学のサークル里山レンジャーズ）が中心となり、あらゆる面で不足している地域内の労働力を補完するための活動を展開した。弥栄らぼの会員である内部の住民は、弥栄の状況を十分に把握していない実動スタッフに対して指導や助言をし、外部人材が円滑な活動を展開出来るサポートする体制が築かれた。

弥栄ショップ出店の様子（浜田市街のスーパー）

この体制の下、以下の活動を展開した

○作業支援･･･高齢者の生活支援として草刈りや農作物の収穫選別作業を請け負う

【反響】学生が休日となる週末を中心に作業を行い、概ね１ヶ月に３件程度住民から受託した。依頼はリピーターの割合が高く、単に作業の支援を期待するのではなく若者との交流を楽しまれる方も少なくない。

○産品販売･･･作業支援の対価として野菜などの農産物を譲り受けそれを中心に販売する弥栄ショップを展開

【反響】月に１回程度の販売活動だが、これまで産直に出荷したことのない方の産品が販売されるきっかけに繋がり、生きがいづくりに寄与できたと言える。収益は十分とは言えないが、出荷を希望する住民からの問い合わせが徐々に増えたりと認知は着実に広がっているといえる。

○広報活動･･･活動の認知を図るため、設立以後、広報誌「やさか新聞」を毎月全戸配布している

【反響】楽しみにしている方が多いとの意見をよく聞く。

・平成２１年度

４月から本格的に実施している「郷づくり」事業と連携した活動を中心に展開し、主に地元学の実践を積極的に行い、集落の足下にある資源を見つける「あるものさがし」を外の人材と中の人材が入り交じり調査。この地元学には地域住民の奮起を促す目的もあり、21 年度は６集落で実施した。

実施後、住民には笑顔が増え、集落の結束が高まるなどの効果があった。

地元学の報告会の様子

● 今後の課題及び展望

・課題

○学生のスキルによって、作業活動の能率が大きく変化し、それに対応するための準備、指導に苦慮した。

○産品販売において、集出荷や販売に多くの時間を割くようになり収益率を上げる努力が出来ず、採算面で不安が残る状況にある。

○活動が認知されるに従って、依頼や相談が増え常駐スタッフ２名では労働力が不足する場面が生じていた。町内の公共、民間の団体やグループとの連携を図り、活動ごとに役割分担して労働力不足の改善のための協議を重ねている。

・展望

○平成 19 年から始まった弥栄らぼの活動は住民の認知も比較的高く、郷づくり事業と地域住民を繋ぐ役割を果たしている。今後も弥栄らぼと郷づくり事業との連携性を深め、双方が円滑に推進できる体制を採っていく。具体的には、郷づくり事業で企画される持続可能な資源利用の実証や集落運営の支援策のプログラムを、弥栄らぼが地域に浸透させる役割を担っていく。また、外部からの来訪者に対しての窓口、コーディネート役を務め、受入母体になるための準備を来年度に向けて行う予定である。